

ハイマート Heimat

ぐんま日独協会会報

2003年 8月26日 発行

28 特集
号 ドイツ
親善の旅

発行者 平形 義人
発行所 ぐんま日独協会
〒377-0007
渋川市石原966 母心堂 平形眼科方
☎0279-22-0149 FAX 0279-24-6867



日独協会総会（大使主催セレモニー）
高島駐独全権大使を囲んで
——ブラウンシュバイク市——
2003. 5. 30



■ハイマート28号 目次………頁

- ☆表紙 ドイツ親善旅行 …………… 1
- ☆巻頭言・古森重隆会長紹介…………… 2
- ☆ドイツ紀行（短信）…………… 3～4
- ☆親独家族 渋川氏・俳句…………… 5～6
- ☆角田勤先生を偲ぶ…………… 7
- ☆青少年に夢を育むチャリティコンサート
実行委員会報告（川島）…………… 7
- ☆活動紹介・日独連合会年次総会…………… 8

15年度 行事予告

- ☆8. 30. Sommer Treffen 11:00～16:00
場所 群馬県 昭和庁舎（前橋市）
講師 木村 敬三先生（財）日独協会副会長（前ベルリン
日独センター総裁、東・西ドイツ大使、イラク
大使歴任）
- ☆10. 13. 国際交流まつり
群馬県庁前広場（終日）
- ☆12. 7. ぐんま日独Xマス（午後）
（場所未定）



全国日独協会
連合会会長

こもりしげ たか
古森重隆ご就任!!

ぐんま日独協会会長
平形義人

不死鳥の如く、日本経済の先頭に立ち、小渕内閣の経済顧問と自他共に許し、日独協会の連合会の会長として、少林山達磨寺にオークの記念樹を贈られた、樋口廣太郎



古森重隆新会長

会長が任期満了名誉会長となられ、去る6月24日、富士写真フィルムKK社長古森重隆会長を迎えることに決まりました。新会長は長崎出身で昭和14.9.5.生まれ東京在住(昭38東大経済学部卒)で平成8年デュ

ッセルドルク支店長Fuji Photo Film (Europe) GmbH社長となりデュッセルドルフ日本商工会議所副会頭も務め、ドイツに於て3万人の雇傭を実現し、ドイツ社会への広い貢献の実績があり、駐日Henrik Schmiegelow大使も大歓迎と承っております。若さと行動力を存分に発揮され、前会長に並んでぐんま日独にも宜敷ご指導を賜り度くお願いいたします。

新連合会長の下に来る2005/6年の「日本に於けるドイツ年」にぐんま日独協会も全力を挙げたいと存じます。

ドイツ旅行にあたって

ドイツ好きの集りぐんま日独協会には、ドイツに行った経験者が多い。しかし、発足以来15年になるから会として親善旅行をしようではないかとの気運が^{たか}昇った折、たまたまJTBのフランクフルト駐在6年の井上敏子理事が参画して頂けることや、ドイツの最も季節のよい5月に古都ブラウンシュバイク市の日独協会副会長バローク輝子様からの親切なご案内もあり、①日独親善交流の使節を旨とし、②にはホワイトアスパラの好シーズンである事で、役員会の度に構想を練り、ドイツのゴミの減量化・公共交通網の促進・水の利用やクリーンエネルギー対策等を学ぶか生活に直結する問題のヒントを求めたり美術館や名勝地も見学し旧知を求め旧情を暖めたいとか、一流劇場を期待するもの、等々テーマ続出であった。

角田勤副会長など体調さえ整えばビジネスクラスで往復してでも夫妻で行きたい、とコースの指導に本気であり、カールスルーエ工科大学出身の田口副会長、日独協会大会に過去4回も出席された佐藤副会長、毎年の様にドイツの時刻表を持って夫妻で訪独される鈴木(克)事務局長、夫妻で昔のドイツ滞在地を偲ぶ旅行をした北爪副会長や本会役員の名刺をもって視察旅行をされた小林和男氏等々皆で衆知を集め、遂に12月のクリスマスの晩に各人エコノミークラス30万円余ビジネス60万円余の程度にて募集が決まり、3月初めに以下の様なプランが決断された。

本来ならば既に82才老翁となった私としては辞退すべきところながら皆さんに支えられ44年前(1949)の旅の再

現が適えられた。世界流行のSARSの兆しに全員にマスクの用意をしたりしながらも遂に快適の旅を果しました。これも出発直前急逝された角田副会長の天上よりのご加護、会員皆様様の応援の賜と存じます。これが将来の日独親善増進のよきステップとなります様に祈って止みません。

申しおくれましたが(財)日独協会はじめ先輩各位のご助言、ご指導の数々を感謝します。特に現地に於いて、沢山のドイツの人々に親切にして頂き、人情溢れる旅行となりました。その代表的な幾人かを順序不同に列記して、思い出とし、感謝を捧げます。

バローク輝子、アンネ・バルコ、堤ステアア賀代子、アキムA・ステアア、Dr. Thilo Graf Brockdorff、特命全権大使高島有終、Dr. phil Dr. h. c. Günther Haasch、Prof. Dr. Irmela Hijiya Kirschneireit、Joachim Uhlir、アレクサンドラ・シュミット、清水大憲・泰代、Gesa Neuert、Helmut stelter、Dr. Michael Martini、Prof. Ulrike Volkhardt、Dr. Wolfgang Ulrich、ボンのメンヒ、ジュッセルドルフの藤本修、ミュンヘンの福田直子・熊谷徹、Alexandra Schmidt、Wolf-Dieter Hahr MA、Etsuko Nitsche、Helmut Engelmann、Berthold・Ursula Kruppa、Heribert・Lucie Schuck、de Zotti、柏木夫人、松本秀子、Paul-Gerhard Benkelberg、…………。

遥るかにAmsel(クロウタドリ)の声を聞き、尾根にDrossel(ツグミ)の姿を想いつつ…………。

(平形義人・記)

ドイツ紀行(短信)



ハイデルベルク・アルテブリュッケの橋上にて

フランクフルト

島田 卓爾・昌子

ライン下り

フランクフルト到着、休む間もなく市内の群馬出身清水ご夫妻の店を訪ねソバ・寿司・焼きそばで交歓。2日目は古都リュエデスハイムで乗船、ザンクトゴアまでライン下り、兩岸のブドウ畑と古城に見とれているとローレライの岩壁をたちまち過ぎる。夕闇迫るケルンには懐かしいアンネ・バルコー（前草津町国際交流員）が微笑やかに待つ、大聖堂を案内してくれ全員にお土産を。3日目はアルトハイデルベルク、お城とカールテオドール橋で歴史の古さを学ぶ。その晩は井上会員の友人を交えフランクフルト最後にして待望のアスパラ晩さん会。この夏に日本を訪れるというピーナッツ合唱団の清く澄んだ歌声で旅の疲れを癒やされる。さあ明日は愈々大会地ブラウンシュバイクへと。

ブラウンシュバイク

対馬良一

独日協会連合会年次総会が5月30、31日、ブラウンシュヴァイクでドイツ各地より32、日本から6協会が出席して開催された。

主な議題として、「ホームステイ、研修生の問題」と、「2005年の日本におけるドイツ年」、について活発な討論が行われ、日・独両協会が事業成功のため協力し合う事で討議を終える。

討議の終了のあと、日本からの参加協会代表の挨拶で平形会長もドイツ語で祝辞を述べ大きな拍手を受け



た。次回はデュセルドルフ開催を決め閉会。

ベルリン

鈴木喜代

ベルリン市内をバスで半日観光をする。人口360万の大都会。

キルヒエンターク(ドイツ新旧キリスト教団合同教会日)で大変な人出であった。総てのキリスト教徒が合同でお祭りをする日で20万人が集る由。

残されたベルリンの壁には絵が一面に描かれていて悲惨な歴史を偲ぶ。圧巻はベルガモン博物館で、古代都市の一部を再現。

陳列品も逸品揃いで、ドイツの逞しさと誇りを感じとった。



ベルリンブランデンブルグ門前にて

学生の街ハイデルベルク

鈴木 克 彬

今回のハイマート28号のP3の写真がハイデルベルクです。本当に美しく落ち着いた街でした。高台の古城から眺めたネッカー川の清流、赤く統一された屋根を持つ家々、その背景にある緑の山々、晴天にも恵まれ、すべて絵になる風景でした。“成程、これがかの有名なハイデルベルクか”と思わずうなってしまうました。

新しいベルリン

松 下 照 明

ポツダム広場は新しく文化や経済の中心として生まれ変わっていました。ソニー・センターを始め最新の建物を大勢の人波にもまれながら、地震のない国の建物に少しばかりの違和感を持ちつつ歩いてみました。ここでお昼。ベルリン名物のアイスパインを食す。そのヴォリュームに一同唖然としつつ、これも名物のビールとともに、充分堪能しました。

ノイシュヴァンシュタイン城

松 下 晴 江

ロマンチック街道も終点に近づいてくると風景の美しさは一段と際立ち、特に国境の山々を背景にしたところなど神々しくさえあります。このような景色の中にあって、あの名城の文字どおり絵葉書のような眺めが出来上がるのです。王様が自身の夢の実現のため国の財布を傾けてしまっただけで作ったお城。私達も夢のような気分で見学してきました。



青空に映えるノイシュヴァンシュタイン城

おいしかった白アスパラ料理

井 上 敏 子

5月中旬から6月の限定され季節に賞味できるドイツの白アスパラ料理！フランクフルトのホテルインターコンチ・ドイツブラウンシュバイクでの総会前夜祭で市ホール内レストラン・ミュンヘン在住の熊谷ご夫妻ご案内の「ゲートホフ」市庁舎地下のレストラン「ラーツケラー」で各種のアスパラ料理。各地の白アスパラのおいしさを思う存分堪能できました。

朝と夜のメルクマール

川 島 孝 一

ミュンヘン(郊外)では、午前5時頃のブラックバード(ツグミ科の鳥で地元ではクロウタドリと呼ぶ・スウェーデンの国鳥)の美しい鳴声で朝が明けます。私達には目覚まし時計?でした。反対に夜(午後10時頃)のとばりは、空に薄青色の絵具を流したような、また、青色的なペールで覆うようなファンタスティックな模様を見せながら次第に深まっています。

大いに歌ったドイツ最後の夜

鈴木 和 子

ドイツ最後の夜はミュンヘンのビアレストランに集合。当地に着いた時出迎えて下さった知人グループの男性の方がこの店で恰度出演とのこと。一番前の席を用意して下さい、我々のリクエストのローレライ、野ばら、菩提樹等の演奏で大合唱。全員、彼からお土産まで渡され、ドイツ旅行の結びとなりました。

公共交通システムについて

鈴木 克 彬

ミュンヘンでは、宿泊したホテルが郊外であったため、市内との往復は全員が地下鉄を利用しました。ドイツでは、日本と違って駅の改札口に駅員はいません。また、確認チェックのための機械もありません。乗客は、自動販売機で切符を買い、乗車時のみタイムを打印し、その後はすべての公共交通を自由に乗り降りしていました。

奥ゆかしい古都、ブラウンシュバイク

佐 塚 操

第2の宿泊地古都ブラウンシュバイク。さすがに落ちついた静かな街。地元の方の案内も心がこもっていました。戦災で半壊した教会も復元、何世紀も前の教

会も記念館、博物館として使用。古色蒼然美しい。ご自慢の図書館も何百年も前の書籍が分類されていた。古書でも貸し出ししているのは日本とちがい羨ましい限りでした。

楽しい食事、買物

杉内 まさこ 沙

旅先での楽しみは食事と買物です。アスパラ料理は絶品！何回たべたかしら。そして土産を始め衣類など、その土地でなくては手に入り難いもの、民族衣裳とか日本とはデザインの違う製品、Tシャツ等、ドイツ製の印のあるのを心がけて買います。沢山の中から好みの品を探すのは大変ですが、それもまた楽しいものです。



ケルン大聖堂前にて（後列中央アンネ・バルコさん）

父より聞きし祖父源作のこと



渋川 ミドリ
(常任理事)

子供の頃からよく聞かされていた祖父源作については、実子の父さえ大学生になるまで1つ屋根の下に暮らしたわけではないので、ドイツでの生活は定かではありませんが、己の意思を貫き通した人生は、明治の人らしいユニークなものであったと思います。その祖父に関心を持ったのは、私が育った頃のわが家の家具調度食器類など、ほとんど祖父の持ち帰ったドイツ製品でした。何でもこんな物がという様な、極楽鳥やワニ、動物の剥製類、土人の生活用品や武器、またドイツで収集した絵画など、どれも祖父の歴史に関わった面白いエピソードのたまものだったからです。

杉山家は静岡県旧安部郡有度村（現在清水市吉川）の庄屋で代々漢方医を業としており、次男の源作が、初めて大学で西洋医学を学んだわけです。でもその源作の東京大学の卒業証書には杉山でなく大橋源作とあるのです。実は彼が医学生の時、清水の街でヤクザに絡まれた時、一人で数人の暴漢をやっつけたところ、その噂が清水の次郎長親分の耳に入り、「杉山には男子が二人居るから、源作を是非養子にしたい」とたつての所望があった由、「断れば報復が怖い、痩せても枯れても杉山家は駿府城の典医までした家柄、次男と言えども博徒の養子には出来ぬ」と親戚会議の結果、遠縁の子なしの神官、大橋家とすでに養子縁組みをしているからと、礼を尽くし断り、ほとぼりが冷めるまで大橋姓を名乗ったのだそうです。

明治18年東京大学別課医学科を卒業し、翌年同期生等と渡独、2ヵ月近い航海を経て、最初の留学地は北海に面したロストックの医科大学。その後ゲッチンゲン、首都ベルリン（旧東ドイツ）へと移り、ウンテルデンリンデン街フリードリッヒ・シュトラッセに落ち着き、10数年医学に没頭していたようです。

祖父はその間、数回日独を往復して、最初に帰国した折り、回りの計らいで結婚したのですが、明治政府から与えられた職が、帝国海軍医務官（当時森鷗外は陸軍医務官）で、クリスチャンだった祖父は軍人になる事を拒み、妻と離別し、明治22年生まれの一子（私の父杉山寛）を実家の兄夫婦に託して、ドイツへ戻ったのでした。

兄彦三郎は、静岡やぶきた茶の創始者で、駿府公園内に立派な胸像を建てて頂きましたが、父の話では、ドイツからの養育費がすべてお茶の研究費になったのだとか。それでも私たちにとっては、唯いつ静岡のお祖父ちゃん（父の養父として）で、昭和16年亡くなるまでは何かと交流があり、私も可愛がってもらった記憶は今も鮮明です。その彦三郎には実子が無く実孫がないので、寛の子を一人ほしいと再三頼まれたらしいのですが、父は頑として受けませんでした。

祖父の帰国記念写真の中に、盛装した2人の南洋の原住民らしき人が写っていますのでたずねたところ、帰国途中に立ち寄ったパプアニューギニア島で、多分

盲腸炎?で苦しんでいた酋長の息子を助けた事から、宝物と称される多くの品々を贈られ、船が出港してから間も無く、カヌーを漕いで追いかけて来る酋長の息子兄弟を見つけ、やむなく船に引き上げ、日本に連れて来たのです。祖父たちの計らいで、数日間日本の各所を見物した彼らは、カルチャーショックのまま、帰りの船で島に送り帰されました。



明治40年代、祖父は東京神田淡路町に杉山胃腸病院を開業、そのすぐ裏隣りに、私の母の家(祖母が経営する旅館)「敷島館」があり、女手一つで旅館を仕切っていた祖母は院長の祖父を信頼して、何事も相談するという、親戚以上の付き合いだったとか、当時の両親は兄妹のように(父は独協中学から日本歯科、母は仏英和小・女学校)扱われていたものでそうです。

杉山病院には代診や研修医、書生等もいて、今も名声高い、南青山の平田肛門科医院初代院長平田篤次博士は、ここの書生をしながら医学校に通い、立派な医師に成られて、戦前アメリカのロスで開業し活躍された方です。

祖父は大正2年、54才という男盛りでこの世を去りました。ドイツ帰りのドクトルで人気があったらしく、胃腸病に限らず、内科一般の患者さんも多くて、その中の一人、「真白き富士の嶺、緑の江ノ島」の作詞者で、詩人の三角すず女史が、肺結核で危篤の時、「どうしても逢いたし」との電報に、嵐を押して神田から逗子までタクシーを飛ばし、海辺の療養所までにずぶ濡れとなり、その後、風邪から肺炎を併発し、誘われたように昇天したと聞かされています。

祖父の遺品の中に、詩に想いを込めたすず女史の書簡や、ドイツの恋人として私たちも公認の、エリザベート嬢の流麗なる手紙や、絵はがきが数々ありました。そして、ドイツ語の堪能だった父にも読めない、ポスターのような印刷物があったのですが、数10年の後、娘婿のゲアハルド(語学専攻)が解説してくれ、これはラテン語で、ドイツでもなかなか取れない権威のあるタイトルの賞であることが分かりました。

巡り巡って今私たちの家族は、日独親善の子、孫のナタリ(1986年のクリスマスに生れた女の子)を中心に、地球の裏側のドイツの家族とも地球規模?で、喜びも悲しみも分け合っているのです。私共にとってドイツは外国ではないのです。ナタリの母親で私の娘ありさが、ドイツへ音楽留学したことも、ミュージシャンに就職して、国際結婚したことも、祖父の影響によるものと思えます。この様な成り行きを、ドイツをこよなく愛した天国の祖父や父は、どう思っているのでしょうか?

このたび平形会長先生からのご要請を受け、逢った事のない祖父源作の思い出を、父の語りをたどりながら、私の記憶を蘇らせてみました。古希を迎え、全てが忘却の彼方へ消え去る前に、この様な機会をお与え下さいました事を、深く感謝申し上げます。

平成15年 7月

高橋有明駐日大使を囲んで(アラウシヨバイタク)

くみま日独協会設立15周年記念
ドイツ訪問団報告
鈴木 克彬

日本と共通する政治課題

Messe
メッセ

少子高齢化や失業など

2003年8月3日 上毛新聞より転載

ドイツ訪問団は、8月1日(水)から8月4日(土)まで、ドイツの首都ベルリンを訪問した。訪問団は、ベルリンのドイツ連邦議会議事堂で、ドイツ連邦議会議長と会談した。また、ドイツ連邦議会議事堂で、ドイツ連邦議会議長と会談した。また、ドイツ連邦議会議事堂で、ドイツ連邦議会議長と会談した。

俳句

(高崎 小林 和男)

旅の宿主音頭の盆踊

夜を濡らし秋深めゆく山雨かな

御追悼

角田 勤先生を偲ぶ

会長 平形 義人



沼田市の旧家、クリスチャンの医家に生れ（1929.12.28）7年制武蔵高等学校に学び、日本医科大学や群馬医学部で研鑽小児科医となり、父業を継承し、福士静恵様と結婚、長女恵子様を12才で失う不幸にも耐え、医業は勿論、広く教育、福祉、文化活動で数々の表彰を受け、特に音楽、美術では関口コオきり絵美術館長、巨守のゾンネ会長、群響を応援する県民の会の発展に盡力され、特にDr. A. Reimannと共に「ドイツ

語会話講座」を開き、駐日ドイツ大使W. Haasより表彰されました。ぐんま日独協会設立（1988）以来副会長に就任、幾度もの渡独の経験を生かされ会務をリードし、昨年（2002.9.21）Sommer Treffen（夏の例会）を沼田市ベラ・ヴィータで催し、長澤崇雄先生の講演に300人を集め、今年はドイツ親善旅行の議長となって、自らもご参加の希望で計画された。既に『肝癌の告知』を受け入院退院を繰返しながらも、他言することなく、ベットの上でも温顔を変えることはありませんでした。5月初I Tに詳しい先生は病床から宇宙旅行希望者に登録をなされ、その人工衛星は今も先生の名刺をつけて飛行中と静恵夫人より承りました。2003.5.16.22時20分73才5ヶ月召天、日本キリスト教団沼田教会の庭にまで溢れる老若男女の会葬者と群響のレクイエムに送られ昇天されました。

ドイツよりの弔辞の一節を認め掲筆します。

Der Tod ist das Ende eines Lebens,
aber nicht das Ende einer Verbindung,
die in unseren Herzen und Gedanken
erhalten bleibt.

死はいのちの終わりなり
されどわれらが心と想いのうちに
保たれる絆は終わることなし

青少年に夢を育むチャリティコンサート

伝統的な古楽器でバロック音楽を！

camerata moderna : 前橋公演
カメラータ・モデルナ

各位の協力により成功裏に終わる!!

去る4月26日（土）、群馬県公社総合コンサートホールで午後2時より開催されました上記の音楽会は、各位のご努力によりまして大盛況（300席が満席）でした。

これも、(1)栃木日独協会（橋本会長）主催の公演がNHKで放映された事が(2)鳥田副会長のGTV出演による放映効果が(3)ドイツ大使館をはじめ11の団体・機関の協力的な後援が(4)実行委員会の組織的活動が——以上、4点の相互作用が結実した成果といえます。

なお、実行委員会は、「アルファ芸術協会ぐんま」との共同体組織で運営を分掌し、業務の遂行に当たりました。

※公演終了後は、演奏者を囲んで関係者との懇親会を持ちました。

「青少年に夢を育む」実行委員会組織

- 委員長 斎藤 民（アルファ芸術協会ぐんま会長・群馬県合唱連盟理事長）
- 副委員長 平形 義人（ぐんま日独協会会長）
- 事務局 川島 孝一（ぐんま日独協会常任理事・アルファ芸術協会ぐんま理事）
- 鈴木 克彬（ぐんま日独協会事務局長）
- 松田 治男（アルファ芸術協会ぐんま事務局長）
- ◎参 与 鳥田 卓爾（ぐんま日独協会副会長）
- 対馬 良一（ ）
- 委 員 各種団体役員並びに後援会役員

また、音楽会での収益金（17万円）は、右記の新聞記事のように「潮太郎ジュニアオーケストラ」に贈られました。

ラの練習会場で行われた贈呈式後、あいさつした戸沢団長は「音楽活動の向上のため有効に使わせていただく」と話していた。



収益金を贈る平形会長

ジュニアオーケストラ（戸沢義夫団長）に寄付した。同協会は四月二十六日にほかの文化団体と共催し、同市内で伝統的なドイツ音楽を紹介するコンサートを開いた。同協会会員が同オーケストラの運営を担当していることなどが縁となり、収益金のうち十七万円を贈ることとした。

同市南町の同オーケストラ

15年度 行事予定

1. Sommer Treffen (夏例会) について
15年8月30日(土)昭和庁舎
・ドイツの近況—元駐独大使 木村敏三先生
2. 国際交流まつりについて
15年10月13日(月) 県庁前広場
3. ぐんま日独Xマスパーティー
15年12月7日(日) ※時間・会場未定

平成15年度ぐんま日独協会活動紹介

夏例会 (Sommer Treffen) 次第

- | | |
|----|---------------------------|
| 日時 | 平成15年8月30日(土) 11:00~16:00 |
| 場所 | 群馬県 昭和庁舎 3階 35会議室 |
| 主催 | ぐんま日独協会 |
| 後援 | 群馬県国際交流協会 |
| 日程 | |
- A 総会 (ドイツ親善訪問のため、4月を8月に変更した) 司会 島田卓爾副会長
挨拶 平形義人会長
ご来賓挨拶 木村敬三日独協会副会長
入澤 肇 参議院議員(当協会会員)
各種報告 鈴木克彬事務局長
審議
- B 昼食後 群馬県議事堂 見学
- C ドイツ訪問 帰朝報告 …敬称略…
司会 鈴木 克彬
報告—1 ドイツの方々とのつながりを求めて
平形 義人
—2 日独協会の総会に参加して
対馬 良一
—3 ベルリン訪問と日本の歌
鈴木 喜代
—4 ドイツの建築とアイスバイン
松下 照明
—5 ドイツ人気質と自然環境の美しさ
鈴木 和子
—6 ドイツを旅して学んだこと
川島 孝一
- 質問と補足説明
- D 講演会 司会 対馬良一副会長
講師紹介 佐藤進一副会長
講師 木村敬三先生
元 駐独日本大使
前 ベルリン日独センター総裁
現 (財)日独協会副会長
……駐イラク大使(3年間)も経験
されました……
テーマ ドイツの近況
——ともに工業先進国である日本
とドイツの悩みと今後の施策——
- E 閉会 北爪和男副会長

[新会員募集中]

希望者は下記へご連絡下さい。
〒377-0007 渋川市石原966 母心堂 平形眼科方
TEL 0279-22-0149 FAX 0279-24-6867

■日独協会連合会年次総会報告

※ Brücke 7/8 合併号(日独協会機関誌)より抜粋

5月30・31日(金・土)にBraunschweigで開催された。Berlin, Bonn, am Niederrheinほか各地DJG計32団体が参加、また高嶋駐独大使ご夫妻を始め、ハンブルク日本総領事館(桜井総領事)、日本文化会館(野呂館長)、JDZB(久米総裁)、ドイツ日本文化研究所(日地谷Kirschneireit所長)ほか多数の関係者・来賓の方々が出席された。

日本からは、ぐんま、豊橋、神戸、とちぎ、東京の5協会が参加した。姉妹都市の関係もあり、豊橋日独協会からは神野会長以下8名の方々が参加され、豊橋日独協会よりBraunschweig日独協会へ寄贈の大漁旗のように朱色に染め上げられた友好の旗が会場入り口を飾っていた。特筆すべきはぐんま日独協会、平形会長以下15名の方々が参加されたことである。参加者の間で話題になったことは勿論である。

Stadhalle近くのLöwenkroneで開催された。丁度アスパラガスの収穫の季節であり、日本からの参加者はこの旬のメニューから新鮮なアスパラガス料理を白ワインで満喫しながら、旧知の人々との交換の時を過ごした。翌30日から31日にかけて、Graf Brockdorf会長、Stoehr副会長の司会のもとに総会が開催されたが、主なプログラムは以下のようなものであった。

開会の辞

ホームステイ・研修生プログラム報告

日独協会連合会を代表して木村日独協会副会長挨拶
Braunschweig市長招待の市立博物館見学とピュッフェ

午後の部

特別講演・ドイツ日本文化研究所
・日地谷Kirschneireit所長

「2005/6年日本におけるドイツ年」について、紹介
夕刻7時より高嶋駐独大使より参加者全員招待のパーティが連合会総会会場となったホテル・メルクールで開催された。パーティに先立ち、ぐんま日独協会の平形会長の仕舞いが披露され、日本文化の伝統芸能が紹介された。続いて同じくぐんま日独協会の鈴木事務局長夫妻得意のレントラーがご持参のドイツの民族衣装姿で紹介され好評を博した。

◇原稿ご案内◇

日独交流につながるご感想・情報・会員消息・作品を住所・氏名・職業・年齢・電話番号明記の上、お寄せ下さい。紙面の都合で編集部で手直しさせていただくことがあります。(800字以内) 編集責任者 (川島孝一)